

平成 14 年度 国土交通省社会実験

広域ドライブ観光に関する総合的道案内システムの実験

報告書（概要版）

後志観光連盟

広域ドライブ観光に関する総合的案内システムの実験

CONTENTS

1	実験の目的と背景	1
1	1．社会実験の目的	1
1	2．社会実験の背景	1
1	3．社会実験の課題	2
2	実験のあらまし	5
2	1．社会実験のめざすもの	5
2	2．社会実験で取り組んでいること	6
3	平成14年度実験のまとめ	7
4	平成15年度実験に向けた課題と方向	10

1. 実験の目的と背景

1-1. 社会実験の目的

後志地域は、年間2,600万人もの観光入込みがある道内最大の観光エリアであるが、交通機関が未発達なこともあり、車によるドライブ観光が主流となっている。このため、交通渋滞の発生や交通事故も少なくなく、安全な道路利用が大きな課題となっている。

一方、観光行動がますます個人化、多様化していく中で、後志を旅行するドライブ観光客のニーズは十人十色というよりは一人十色の様相を呈しており、必要な情報が必要なところで手に入らないという問題が発生している。観光客へのアンケート調査でも観光地の情報提供や案内標識についての改善要望が強く出されている。

このような状況の中で、後志を訪れる観光客の安全確保と快適なドライブ旅行実現のために、後志の地域特性を生かした新しい情報提供の仕組みづくりが求められている。

本社会実験は、以上の課題に応えるため、地域と行政の協働により、観光・地域情報、道路・気象情報等を統一的に集約、配信する体制を確立するとともに、IT技術や既存の情報提供手段を含めた多様な手法によるドライバーへの情報提供施策を検証することを目的とする。

1-2. 社会実験の背景

[1] 「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験」

広域ドライブ観光に関する情報提供については以前からいろいろな取り組みがあり、本社会実験に直接関連するものとして、「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験」があげられる。これは携帯端末を用いた情報提供実験であり、特に道路情報、防災情報などの行政から発信される情報提供と地域情報とをリアルタイムに利用者に提供しようというものであり、来るべき高度情報化社会の情報提供の可能性を検証したという意味で大きな意義があった。しかし、地域情報の提供については、地域内での情報収集体制が十分確立されていなかったこともあり、情報提供は主に行政主導で行われ、その部分で若干課題を残す結果となった。

今回の社会実験は、この「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験」の成果を踏まえ、それを発展させることも大きな課題の一つである。特に地域情報の提供については、地域の人たちが積極的に参加する新たな情報提供の仕組みづくりが求められており、これにより生きた情報発信とその持続的な情報提供体制の構築をめざしている。

[2] 「後志観光iセンター・ネットワーク構想」

国土交通省では、後志地域を対象に平成12年度から13年度の2カ年にわたり「滞在型観光交流空間づくりモデル事業」を行い、後志観光の課題の整理と将来の観光の発展方向について検討を行い、後志の観光振興に対するいくつかの提案を行っている。その提案の一つに、後志各地域における観光案内所の充実とそのネットワーク化をめざす「後志観光iセンター・ネットワー

ク事業（構想）」がある。ここでは、後志20市町村における観光案内所（iセンター）の設置と、各iセンターの情報を共有するためのインターネットサイト（ポータルサイト）の構築が提案されている。

今回の社会実験で目指している新たな仕組みづくりの骨格的な枠組みは、この構想に基づくものである。

1 - 3 . 社会実験の課題

[1] 後志観光の課題

後志観光の特性としては、大都市札幌圏から至近であるという恵まれた立地条件とともに、旅行者のほとんどが自動車利用者であるという特徴を持っている。また、変化に富む地形・景観と、そこに点在する観光資源の多様性などから、さまざまな体験活動の楽しめる観光地域となっている。

このような特性をもつ後志地域であるが、課題も少なくない。今後、特に解決が期待されている課題としては次のものがあげられる。

交通渋滞の緩和

安全な走行環境の実現

多様な選択のできる旅行環境の実現

広域連携による情報の共有とその持続的な仕組みづくり

観光と一次産業との連携による地域の活性化

後志の美しい景観づくり

[2] 課題解決の方向（情報提供面からのアプローチ）

以上は後志観光の全般的課題といえるものであるが、これらの課題解決を主に情報提供面から行おうとするのが本社会実験である。

具体的には、大きく次の2つの方向から課題解決を図っていくことが考えられる。

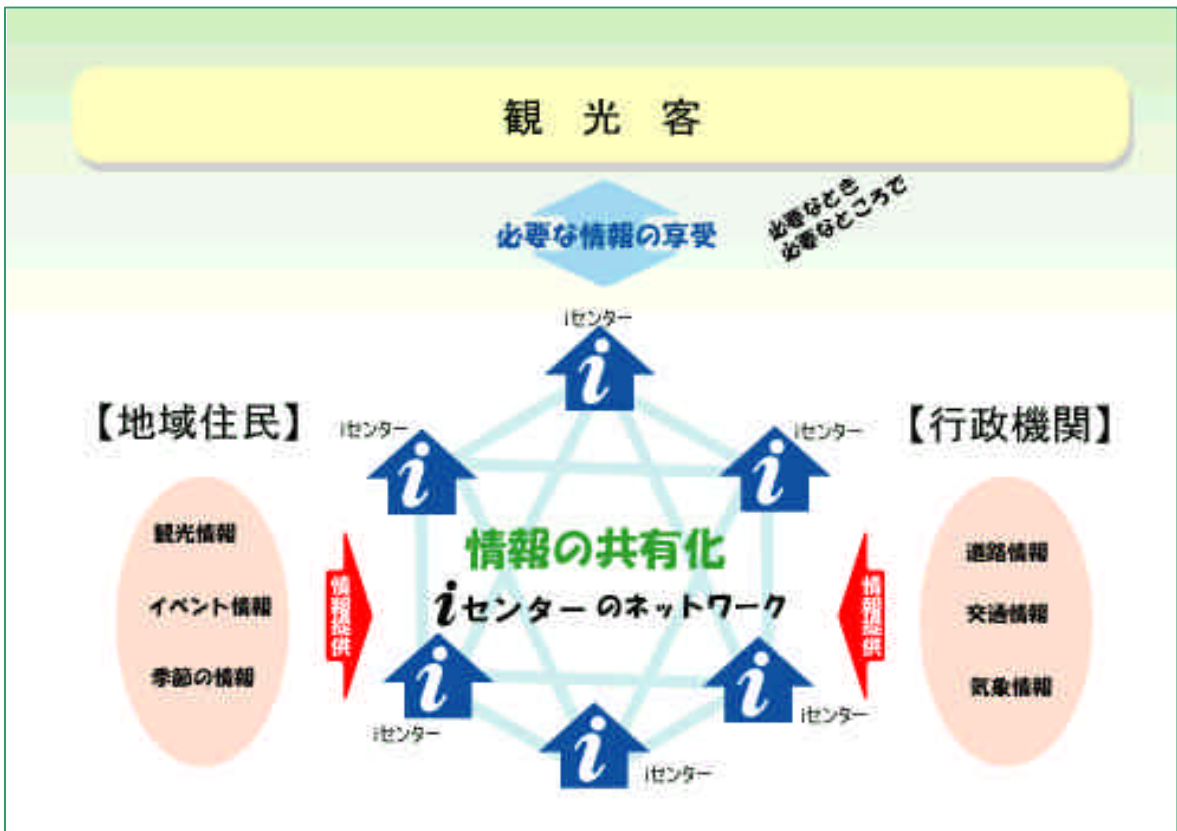
地域情報の収集・発信の仕組みづくり

観光客が特に必要としている情報の一つが、地域の人たちが発信する地域情報である。そのためには、地域住民が中心となって、そうした地域情報を地域内部で持続的に収集し、提供する仕組みをつくっていかなければならない。

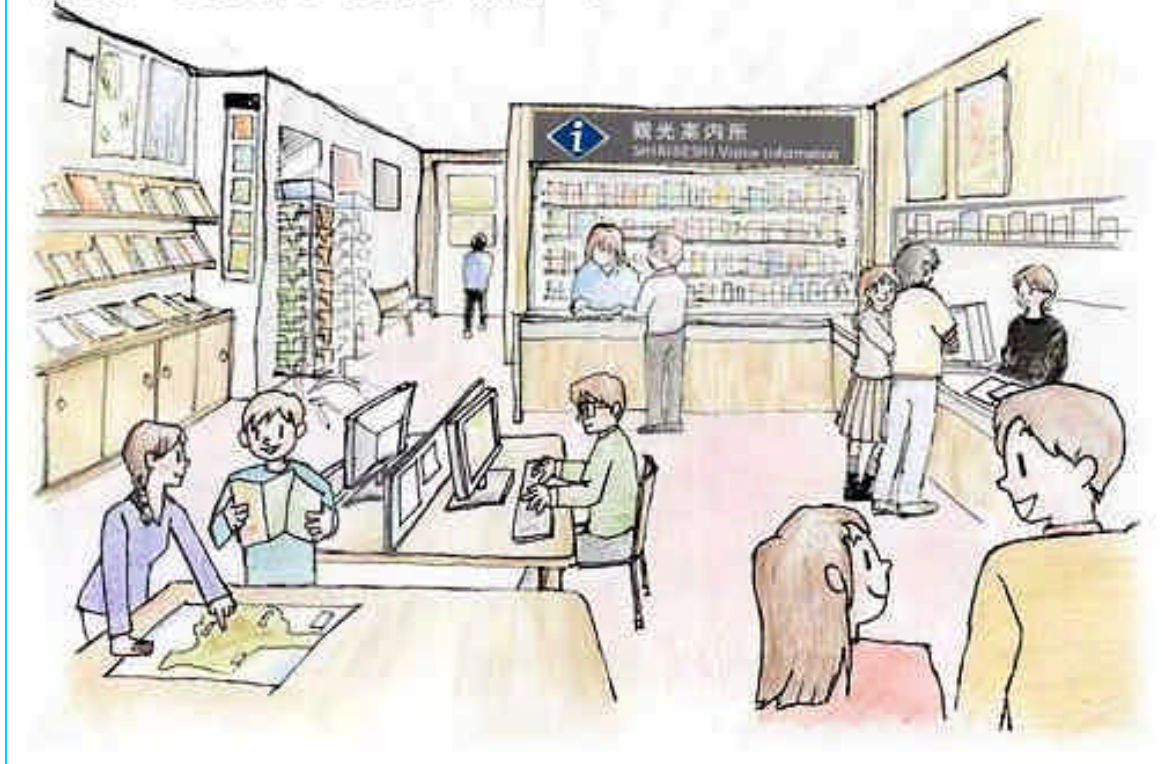
地域情報の共有とリアルタイムな情報提供の仕組みづくり

観光客は広域的に動いており、観光客が必要とする情報は、決して一つの地域だけにとどまらない。また、欲しい情報についても、地域情報だけでなく時には天気予報や道路情報の場合もある。したがって、このような多様な情報が総合的、体系的に提供されるように、地域情報と公的情報を後志地域全体で共有し、それを必要なタイミングで提供できる仕組みをつくっていかなければならない。

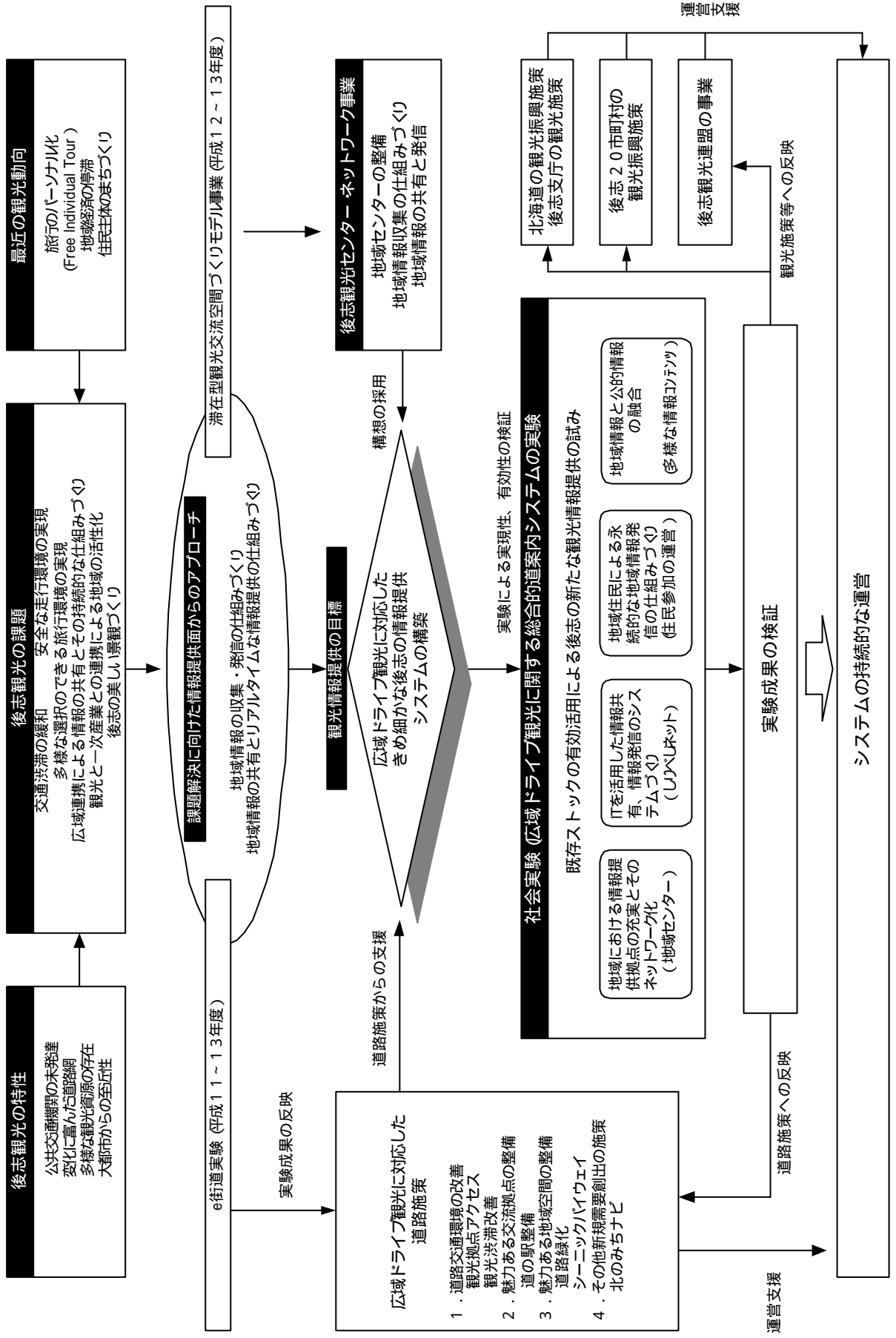
地域のリアルタイムな情報によって快適で魅力のあるドライブ観光を実現



インフォメーションセンター(iセンター)のイメージ



広域ドライブ観光に関する総合的案内システムの実験の背景と位置付け



2. 社会実験のあらまし

2-1. 社会実験のめざすもの

後志地域においては、以上の課題解決に向けて、安全で快適な広域ドライブ観光に対応したきめ細かな情報提供システムの構築が不可欠となっており、その具体的な推進方策の検討が求められている。

その具体的な推進方策としては、滞在型観光交流空間づくりモデル事業で提案された「後志観光iセンター・ネットワーク構想」に、さらに公的な情報を含む多様な情報をネットワークした後志独自の情報提供の仕組みを築きあげることである。本社会実験は、そうした仕組みの実現性と有効性を検証するものであり、その成果を広域ドライブ観光の推進のための道路施策等に反映させることをめざしている。

後志独自の情報提供の特徴として、地域資源を活用した住民参加による情報提供の仕組みであることである。すなわち、本実験においては、全く新たなシステム、新たな手段等を構築するというよりは、民間レベル、行政レベルですでに実施されている試みを横断的に統合、拡張、見直しを行い、さらに新たな工夫を加え、それにより多様な情報の入手・提供が可能な持続的で魅力のある民間主体の総合情報提供体制を構築、発展させることをめざしている。

こんな体験ありませんか？

楽しみにしていたドライブ旅行、大切な思い出づくり。でも、なぜかうまくいかない・・・
なんてこと今まで経験ありませんか？



一体何が問題なの？

地域の情報や道路情報などが、旅行中リアルタイムに提供される場所や仕組みがないからです



2 - 2 . 社会実験で取り組んでいること

本社会実験では、このような仕組みを実現させるため、大きく次の4つの具体的な目標を設定し、その検証を行うものである。



1 地域*i*センターの立上げとそのネットワークづくり

iセンターはインフォメーションセンター（観光情報センター）の略で、地域を訪ねたとき、地域のことなら何でも親切に教えてくれる情報の拠点である。iセンターは、既存の観光案内所の充実または新たな設置により実現するものであるが、その施設形態、運営形態、また後志地域でのネットワーク形態について、そのイメージづくりとともに実現性、有効性を検証する。



2 しりべし*i*ネットによる情報の発信と共有

各地域iセンターが発信する情報は、「しりべしiネット」という後志独自のインターネットのポータルサイトに反映されるようにする。ここには、地域情報だけではなく、後述する交通情報、道路情報、気象情報などの公的情報も同時に反映される。本社会実験では実際に「しりべしiネット」を立ち上げ、その公開により、このような情報の共有化の可能性ならびに利用者に役に立つリアルタイムな情報提供の仕組みを検証する。



3 地域内における情報発信の仕組みづくり

地域iセンター、iネットには、地域の新鮮な情報提供と観光客に対する心温まるサービスの提供が求められる。そのためにも、地域iセンター、iネットの運営は、行政が主導するのではなく、地域の人たちが主体的に参加することが重要であり、その仕組みづくりを地域の人たちと一緒に考え、具体的な課題を明らかにする。



4 地域情報と公的情報の融合

地域iセンターが提供する地域の情報と、交通情報、道路情報、気象情報などの公的機関が提供する情報を融合し、地域iセンター、道の駅、各交通拠点などで、必要なとき必要な情報が手に入るよう、主として技術的な観点からその実現性を検証する。

3. 平成14年度実験のまとめ

今回の社会実験の目標として掲げた4つの事項について実験成果をまとめると、次のとおりである。

1) 地域における観光情報提供拠点の充実とそのネットワーク化の検証(地域iセンター)

今回の社会実験では、iセンターの望ましいあり方を検討してもらうとともに、全市町村へのアンケート調査ならびに直接訪問して具体的なiセンターの立地の可能性についてヒアリングを行った。

iセンターの課題としては、iセンターが入る施設・建物、提供する情報内容、窓口で対応する人、の3つの面でそれぞれいかに質を上げられるかである。後志地域においては、特に に関してはほぼ基盤が整っているものと考え、問題は の情報内容である。この部分に関しては、まさに次に示す「しりべしiネット」の立上げにより、情報内容の充実が図られるものと期待される。

このように、地域iセンターに関しては、全くゼロからのスタートではない。すでに多くの市町村で具体的な場を持っているという実績は大きい。したがって、iセンターという新たな機能の導入により、既存の施設(道の駅など)充実していくようなシナリオを描くことが重要である。

平成15年度においては、既存施設(道の駅など)を有効に活用した各地域のiセンターづくりとそのエリア内における施設連携、人的交流を進める。

2) ITを活用した情報共有、情報発信の考え方の検証(しりべしiネット)

今回の社会実験の大きな作業は、地域情報および公的情報が一元的に管理できる情報共有の仕組みづくり、すなわちそのツールとしてのオリジナルなインターネットサイトの作成とその実験的な発信であった。課題は、今後このサイトを持続的に運営していけるかどうかである。そのためには、いかに多くの人を引き付ける魅力あるサイトにしていくか、その運営をできるだけ地域住民に委ね、持続的な運営の仕組みをどうつくるかが重要である。特に、地域から発信されるドライブ観光情報サイトであることを強くアピールしていくことが必要であるとの結論に達した。

3) 住民参加による持続的な地域情報発信の仕組みづくりの検証

地域の情報発信は地域住民の参画により実現することが望まれており、実際にモデル地域においてその可能性を確認した。特に、iセンターの運営に関しては、地元住民が参画しiセンターを運営する組織づくりが非常に重要になってくることから、今回の社会実験の中で具体的な組織イメージを考察した。

特に、しりべしiネットの今後の運営に関しては、各iセンターだけでなくそれらをつなぐ全体的なネットワーク組織の立上げも必要になってきている。社会実験では、その組織を(仮称)しりべしツーリズムサポートと呼び、その組織のあり方についても若干の検討を行ってきた。今年

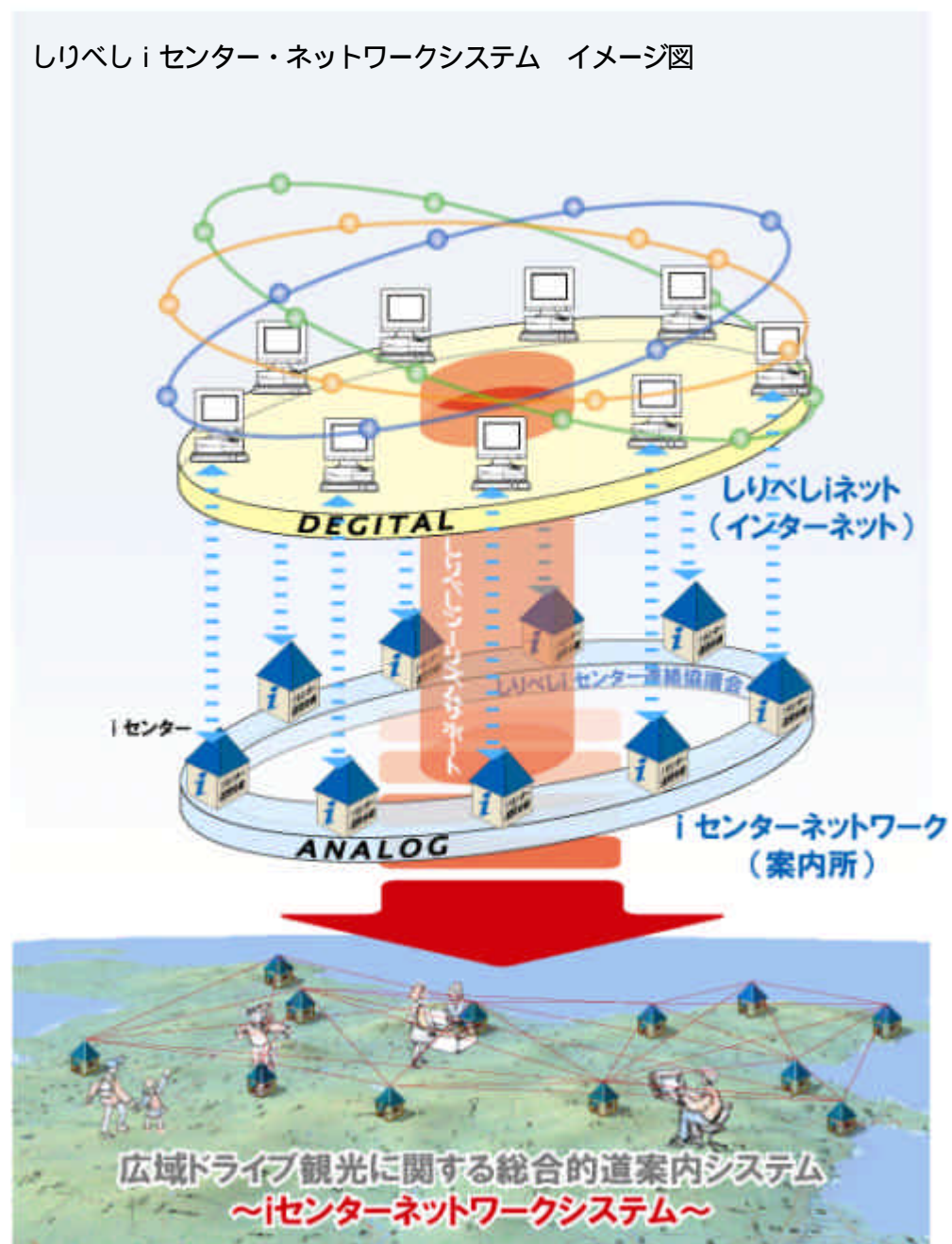
度は主にそうした組織が成立するための条件を整理したが、平成15年度においては、さまざまな地域条件に応じた組織づくりをめざす。

4) 官民協働による地域情報と公的情報の融合方法の検証

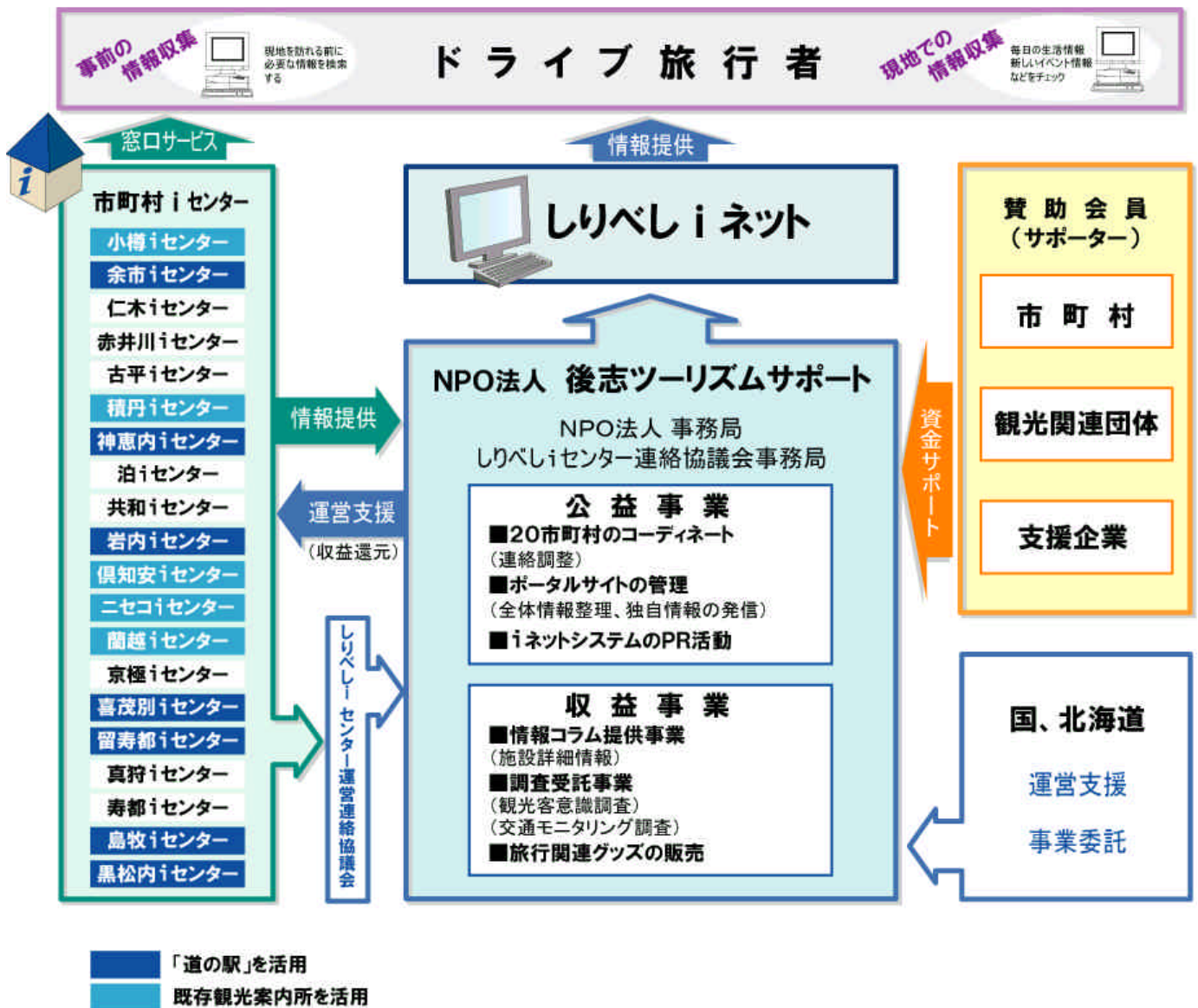
ドライブ観光に関する情報提供で、今後、特に重要になってくるのが、地域住民が発信する情報と国などが提供する公的な情報とをどのように共有、融合していくかという点である。今回の社会実験では、関係機関を交えた何度かの議論により、その大きな枠組みについてのコンセンサスは得られた。

この結果を踏まえ、平成15年度においては具体的な課題としてクローズアップされた技術面、情報管理面や持続的な連携の仕組みづくりについて、実証実験が必要である。

しりべしiセンター・ネットワークシステム イメージ図



しりべしツーリズムサポートの組織イメージ



4 . 平成 1 5 年度実験に向けた課題と方向

[1] iセンター整備に向けての課題

iセンターに関しては、これまでは主にコンセプト議論を進めてきたが、来年度は、より具体的な運営方法についての検討が必要である。そのため、関係市町村においてモデルとなるiセンターを設置（既存施設の活用などによる）し、実際に稼働実験を行いながら、施設としてのiセンターの立地およびデザイン、案内ガイドのあり方などを検討していくことが必要である。

[2] しりべしiネット構築に向けての課題

今回の社会実験の中で、具体的に取り組んできたテーマの一つが「しりべしiネット」の構築である。平成14年度において、サイトの基本的なデザイン、データベース構築の考え方、コンテンツの整理などを行ってきたが、今後は、実際のサイト公開に向け、サーバーの設置を含むシステム環境の構築と、「iセンターだより」を中心とした特徴的な情報コンテンツの作成が必要である。「iセンターだより」は、地域の個性が表現される地域iセンターの手づくりページであり、このサイトの最大の特徴であることから、特に重点的に取り組むものとする。

[3] しりべしツーリズムサポートの事業化に向けた課題

後志地域全体のiセンターを統合する組織（しりべしツーリズムサポート）のあり方をさらに検討する必要がある。その事業化に向けては、組織形態、収益事業の可能性、行政との関係性などを明らかにしていく必要がある。

[4] 地域情報の収集と公的情報の融合に向けての課題

道路情報、交通情報などの公的情報と地域情報とをどのように収集し、それを融合していくか、またそれらをどう発信していくかについては、これまでの検討では必ずしも十分ではなかったといえる。今後、技術的検討を含むさらなる検討が必要である。

また、地域における緊急情報、防災情報の円滑な伝達方法や各種道路施策とも連動した望ましい観光情報提供のあり方を検討していくことが必要である。

[5] 市町村への働きかけに関する課題

iセンター、iネットの普及に向けては、市町村の理解と協力が不可欠である。そのため、市町村の熟度に応じた段階的な対応の方法を検討し、それに応じた協力を要請していくものとする。また、その関連で実験期間中における市町村支援のあり方、民間協力者の募集と発掘方法などもあわせて検討し、円滑な事業推進につなげていく。

広域ドライブ観光に関する総合的案内システムの実験 道路事業との関連

